



MONTHLY

# かわせみ通信

7月号

2016年7月

Vol.83

発行所  株式会社 東海テクノ

ECOLOGY & SCIENCE

本社/三重県四日市市午起2丁目4番18号(〒510-0023)

TEL.059-332-5122(代) http://www.tokai-techno.co.jp

## 真夏の夜に聞きたくない怪談～温暖化の呼ぶ招かれざる客～

夜でも30℃近い熱帯夜の蒸し蒸しとした夜。エアコンの無い江戸時代には少しでも涼しい思いができないかと怪談話をする「百物語」の風習があった。確かに、恐ろしい話や怖いものを見た時には、「背筋が凍る」、「身の毛もよだつ」、「寒寒が走る」、「血の気が引く」、「鳥肌が立つ」などクール系の表現が使われることが多い。実際に体温を測ったことはないのだが、怪談や怖い話を聞くと人間は極度の緊張状態になって副交感神経が刺激されて毛細血管が収縮、末端まで血液が運ばれにくくなることで体温が下がるという原理らしい。なんとか暑さを紛らわせる当時の庶民の微笑ましい知恵とも言えるが、実際に熱帯夜が増える要因ともなる温暖化の進行は、リアルに震え上がる事態を招くことが危惧されている。例えば、マラリア、西ナイル、チクングンヤ、黄熱、デング熱などの媒介生物であるネッタイ

シマカは、1月の平均気温が10℃以上の地域で越冬し、生息が可能となるため、このまま温暖化が進むと2100年には千葉県の南部まで生息域が北上すると予想されている。マラリア原虫は、蚊に寄生すると感染初期の間は血液を欲しがらないように蚊を操り、成熟すると無謀なほど血を吸うようにし向けるという、まるで



斑点米カメムシに吸汁されてしまったお米

で霊が憑依する怪談話そのものの生態を持っている。また、米の一部が変色した斑点米の発生という農業被害が北上しているが、これは糊(もみ)の上からまるで吸血鬼のように米の汁を吸う斑点米カメムシ類による被害で、近年温暖化の影響により分布域を拡大させていると見られている。こうした温暖化以前には発生が確認されていなかった、あるいは生息が不可能であった害虫や病原菌、節足動物や扁形動物、外来魚や外来植物が空路、海路でやってきては新たな疾病の発生や生態系を脅かす時代が訪れると予測されているのだ。いずれ、緊急持ち出し袋には、虫よけスプレーや殺虫剤、アナフィラキシーショック対応薬などの常備が推奨されるかもしれない。そんな時代を迎えないように、今日も冷房温度をちょっと控えめにしようと思うのであった。



教えて！  
かわせみ先生

### 塗装を剥がす工事に ポリ塩化ビフェニル(PCB) 調査が必要と聞いたけどなぜ？

実は橋梁や横断歩道など鉄鋼製構造物の電蝕による錆を防止するためにPCB、鉛、クロムを含む塗料が過去(昭和42～47年頃)に用いられていたことがあるんだ。それで、これらの有害物質を含む塗料の剥離作業・塗装の塗り替え工事を行う前には、剥離作業者の曝露防止、剥離後の塗膜くずの適切な廃棄のために有害物質の含有量を調べることが必要になっているんだよ。入っているとわかった場合は飛散防止、曝露防止策を徹底して作業をしないとイケないね。曝露防止については厚生労働省より通達も出ていて、「鉛中毒予防規則」に基づき「鉛作業主任者」や、「特定化学物質障害予防規則」に基づき「特定化学物質作業主任者」の配置も必要になるんだ。平成24年2月に、一部の有機顔料に製造工程で非意図的に副生したPCBが含有されていることが判明したり、40年あまり前に製造・輸入・使用が中止になっている物質なのに世の中から無くなるのにはまだまだ時間がかかりそうだね。

## 夏のエコフェア2016

今年も、三重県環境学習情報センター主催「Mie子どもエコフェア」と(株)東産業主催・四日市大学共催「環境フェア」が統合し、「夏のエコフェア2016」として開催されます。小学生以上のお子様を対象にした体験や工作、展示、講義などを通して「エコ」について学べるイベントです。当社は昨年同様、鈴鹿山麓リサーチパーク会場に参加します。お子様の好奇心を刺激できるようにがんばりますので、ぜひ当社ブースへもお立ち寄りください。



【日時】平成28年7月23日(土)・24日(日) 10:00～15:00

(雨天決行) ※四日市大学会場は24日(日)のみ開催

【会場】第1会場：鈴鹿山麓リサーチパーク会場：三重県環境学習情報センター及び周辺施設

第2会場：四日市大学会場：四日市大学(四日市市萱生町1200)

【参加費】無料 ※一部有料(飲食・材料費等)

### 社員プチコラム

佐久間 麻友(四日市分析センター ラボGr)

天気の良い日は花を見に行きます。先月は伊勢市の二見しょうぶロマンの森に行ってきました。森に囲まれて100品種4万株ものハナショウブが一面に広がる様は秘境のような美しさでした。花だけでなく、周囲を流れる小川のせせらぎや、ウグイスなどの小鳥のさえずりが響き、癒しの一時を過ごすことができました。ここのハナショウブは伊勢系、江戸系、肥後系と呼ばれる三大系統が分けて植えられているので、それぞれの違いを探す楽しみもあり、オススメです。さて、次はハスやヤマユリ、アサガオの季節。今年の夏はどこに行こうかな。



### 編集後記

今年の「夏のエコフェア」は2会場で行われ、24日の四日市大学の会場では小学生高学年以上を対象として「子供から大人まで楽しめる」興味深い内容になっています。私もぜひ行ってみたいのですが、私は第1会場担当になりましたので、子供たちと楽しみたいと思います。(みっちー)

